

2024 11

兵庫県商工連会報

No.774 2024.10.20 / 偶数月20日発行

# 翔光



良い商品を作り、人様へのお役立ちに寄与するために

近畿農産資材株式会社（佐用町）

佐用町は、県内でも人口密度が低い地域であるという利点を活かし、中堅規模以上の牛や豚の肥育や養鶏、酪農などの畜産業が主要産業となっている。しかし、畜産業の拡大には畜産排泄物の処理問題がつきまとう。

1978年の創業以来、排泄物から肥料を製造することで地域の畜産業の成長を陰で支えてきたのが近畿農産資材株式会社である。

「良い商品を作り、人様へのお役に立ちに寄与する」という創業者の思いを引き継いだ2代目社長が「ひょうご産業SDGs認証事業ゴールドステージ」の取得など地域貢献に意欲的に挑戦する理由に迫った。（詳細はP4）



へ 牛糞の堆肥化により、循環型社会構築に貢献していると認められ、「ひょうご産業SDGs認証事業ゴールドステージ」を取得

## CONTENTS

- 02 | 正副会長会・理事会／金融審査委員等講習会他
- 03 | 県青連・県女性連 幹部講習会他
- 04-05 | あなたのまちの元気な企業・佐用町商工会情報

- 06 | 県青連・県女性連・壮青年部 合同講習会他
- 07 | CC（チーフコーディネーター）コラム他
- 08 | SDGsにかかるエッセンス／県下SDGs認証事業結果報告他

あなたのまちの  
元気な企業 ✦

「もっと地域から評価され、従業員が誇りををもって働ける企業になるため」SDGsの取り組みに挑戦 近畿農産資材株式会社（佐用町）

## 地域の公害問題を解決し、畜産業と共に成長

近畿農産資材株式会社は、現社長である西 威誠氏の父が、妻の父親の研究知識を活かし、当時佐用町で問題となっていた畜産排泄物による公害問題と、食料問題の両方を同時に解決できる画期的なビジネスモデルとして、畜糞を主原料とした有機質肥料や土壌改良材のメーカーとして1978年に創業した。

同社が良い商品をつくり、新工場を建設するなど生産量を拡大することで、佐用町内での糞尿の垂れ流しが減少し、見事に川の公害問題もなくなった。畜産業の拡大に伴い、地元行政からも頼りになる存在として認められるようになった。

現社長が事業を承継したのは2009年。事業を承継するにあたり、「業績が良いわけではなく、事業を引き継ぐか悩んだが、創業者が大切にしていた『良い商品を作り、人様へのお役に立ちに寄与する』という思いと実際に地域の主要産業を支えている自負があり、事業を引き継ぐことを決意した。」と社長は語った。

## さらに人様の役に立ち、収益力をつけるために

まだ先代が代表を務めていた2000年頃、県内の某酒造メーカーから、酒の製造のろ過工程で使用する活性炭の廃棄について、処理費が高くて困っているという相談があった。

先代はこれを使用した商品を開発できないかと考え、数年間の研究の末、高機能の土壌改良材として製品化し、全国に出荷するに至っている。

酒造メーカーから見れば廃棄物のリサイクルと処理費用の削減の一石二鳥で大幅な経営改善につながり、この取組は評判を呼び、すぐに他の酒造メーカーにも広がった。



ものづくり補助金により新たに導入した設備

しかし同時に原料が増えたことで、この酒ろ過活性炭の更なる活用方法を考え、佐用町商工会に相談。異業種交流事業を活用し、神戸大学農学部と酒ろ過活性炭を使用した有機堆肥の効用を深掘りする研究開発に挑戦し、土壌の安定化や二酸化炭素の排出低減などへ一定の貢献が判明した。

2013年～2018年に掛けてものづくり補助金にも挑戦。申請時にも商工会の支援を受け、設備の導入により生産性が向上し、業況を拡大していった。

その過程で、地域での雇用を増やし、賃金アップやワークライフバランスへの取組など従業員の待遇も向上した。そのため、「これだけ地域経済に貢献しているので、当社で働く従業員を幸せにしている。」と自負していたと社長は振り返った。

## 思いもよらない地域住民からの評価に驚愕する

そんなある日、従業員から地元の知り合いに自身

の仕事に「汚い仕事」と揶揄されたと社長に報告があった。

同地域のインフラとして主要産業を支えているにもかかわらず、実際に会社の存在は知られつつあるものの具体的にどんな事業をしているのか認知されていないというのが大半の評価であった。

そんな状況の中、社長は表面的な部分だけをとらえて当社の仕事が「汚い仕事」として認識されていることに憤り、社内への悪影響を最低限にとどめるように朝礼で「私たちの仕事は本来環境公害になるものを緑化用の土として有用化し、全国に緑の空間を提供する素晴らしい仕事です。佐用町内では公害の発生要素を未然に失くしているインフラとしての存在であり、世の中に役立つ素晴らしい仕事をしています。感謝されることがあっても誹謗中傷を受ける言われは無い。堂々としてほしい。」と発言した。

その結果、会社の雰囲気は良くなり、従業員のモチベーションアップにつながった。

## 従業員のためにも当社がもっと評価されるために

このことをきっかけとして、社長は「当社がもっと地域から正当な評価を受けるにはどうしたら良いか」と考えるようになった。

そんな折、佐用町商工会の古田経営指導員から「ひょうご産業SDGs認証事業」へのチャレンジを提案され、「アドバンスステージ」の認証取得に取り組んだ。古田経営指導員とどの項目に自社のどの取り組みが当てはまるかを考えながら申請し、2023年12月に無事認証を受けた。その後も業務内容をブラッシュアップし、2024年8月20日には、最高位「ゴールドステージ」の認証を受けた。

この時点で、兵庫県や知り合いの社長からの評価が大きく変化したという。続けて、地域を走る智頭急行の「駅名ネーミングライツ」事業にも参画、スポンサー契約を勝ち取った。

これらの事業に積極的に参画する理由について「従業員が当社で働くことに誇りを持てること、また地域内の若者がUターンで佐用町に戻ってくる際の職業の選択肢として当社が選ばれるように地域住民に対する当社のブランド化を図っていきたい。」という社長の思いがある。「有機堆肥の製造には、重機を用いるためまだまだ化石燃料に依存している。同認証事業ゴールドステージに認定された事業者として恥じないよう、5年後を目指して、化石燃料の使用量を低減し、電気を主とした有機堆肥を製造できる体制を整えていく。」と社長から今後の意気込みを聞くことができた。近畿農産資材株式会社の新たな挑戦は次のステージに進んでいる。



同社初のスポンサー契約の締結を果たした、智頭急行開業30周年を記念して開始した「駅名ネーミングライツ」事業

取材先  
概要

事業所名 近畿農産資材株式会社  
代表者 西 威誠  
住所 佐用郡佐用町山脇字一本木1129

TEL 0790-82-3862  
URL https://kinki-nousan.jp/



## 商工会の紹介ページ

## 佐用町商工会

## 商工会概況



会長 井口 寛

(資)井口呉服店  
無限責任社員

佐用町は、兵庫県の西端に位置し鉄道はJR姫新線と智頭急行が交わる佐用駅があり、また国道も179号線と373号線が交わり、高速道路も中国自動車道と鳥取自動車道が交差する交通の要衝です。夏のひまわり畑のほか西はりま天文台、国指定史跡「利神城跡」、宿場町平福、ホルモン焼きうどん等数多くの観光資源があり地域経済の大きな柱となっています。

そのような中、事業者に寄り添った伴走型経営支援として町補助金による「創業・第二創業支援事業」「特産品開発事業」「利子補給事業」「事業継続・事業承継支援事業」や経営分析を中心とした事業計画・創業計画などの経営発達支援

計画に基づいた個社支援・セミナーを開催しています。

特に、デジタル化・DXの推進による経営効率の向上・生産性向上支援、インボイス制度・電子帳簿保存法等の制度内容の普及・理解促進、SDGsへの取り組み支援、頻発する自然災害等の対策としてBCP(事業継続計画)策定支援といった新たな支援についても積極的に行っています。

当会では人口減少と少子高齢化による商工業者の減少という課題解決に向け、地域振興事業にも積極的に取り組み、会員また地域に信頼される商工会を目指しています。

## 地域情報

## 「さようご当地グルメスタンプラリー」

佐用町のご当地グルメをPRする事業を実施しており、今年で10年目を迎えました。ご当地グルメの「ホルモン焼きうどん」「ジビエ料理」「佐用ひまわり地鶏」「佐用もち大豆」を観光資源として位置づけ、食と観光を結び付けたスタンプラリーを実施しPRを行っています。近年では2千件近い応募があり、回を重ねるごとに参加者が増えており、ご当地グルメ、参加事業所、町内観光施設のPRに繋がっています。



## 「青年部トライアルキッズ事業」

青年部では夏休みに合わせ小学生職業体験事業「トライアルキッズ」を開催しており、毎年100名近い参加者があり子育て支援、地域振興の一助となる活動を行っています。青年部員が中心となり様々な職業体験ブースを設け、子供達に仕事の模擬体験をしてもらう事により、仕事の楽しさや厳しさを経験してもらっています。また、参加事業所や地元の高校生ボランティアの協力を得て地域の方々との交流を深める機会にもなっています。



## 「女性部大イチョウおもてなし事業」

樹齢千年をほこる佐用町の大イチョウ。紅葉シーズンには県内外から多くの観光客が佐用町を訪れています。女性部では令和2年度より、佐用駅からイチョウ公園まで続く佐用商店街の事業所、町内の各観光施設と連携し、のぼりや観光パンフレットを設置。大イチョウをPRするおもてなし事業を実施しています。また紅葉シーズンには女性部員による「おもてなし」として観光案内、特産品を景品とした抽選会を行い、観光施設や特産品のPRを行っています。



左上から、松尾係長、古田課長、丸山係長、猪子係長、船引主任、阿曾課長  
左下から、大野職員、布笠主査、石原局長、井口会長、赤松主査、高濱職員

## 佐用町商工会

〒679-5301  
佐用郡佐用町佐用3043-1  
TEL: 0790-82-2218  
FAX: 0790-82-3386